

「年金の将来とこれからの老後」

名古屋市立大学大学院
経済学研究科・経済研究所
第21回公開シンポジウム基調報告資料(案)
ダイジェスト

2016年11月23日開催

臼杵政治

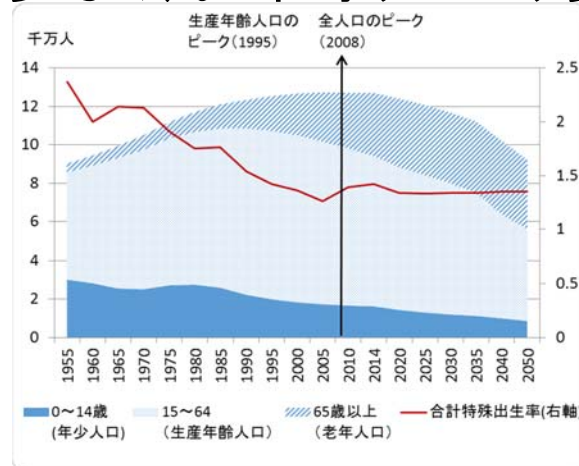
usuki@econ.nagoya-cu.ac.jp

(注意)本資料は11月23日に開催される、公開シンポジウム「いまから考えよう20年後の老後」の基調報告資料の原案(ダイジェスト)です。無断転載などをご遠慮下さい。また、当日の資料は予告無く変更・加除されることがありますので、ご承知おきください。

「年金の将来とこれからの老後」

1. 20年後の日本の人口はどうなっているか
2. いまのお年寄りの生活からのヒント
3. 20年後の年金はどうなっているか
4. いまからできることは何だろう

1. 20年後の日本の人口はどうなっているか : 子供はより少なく、お年寄りはより多く



- 15歳未満の人口は70年代の2700万人から、2030年には1千万人(現在は800万人)
- 生産年齢人口は8700万人(1998)から、6300万人に。老年人口は2030年代からほぼ横這い。
- 出生数・死亡数は100万対130万から、70万対170万人に。

3

2. いまのお年寄りの生活からのヒント

- 「年齢別幸福度をみる」: 例えば「10点を最高、1点を最低、とした場合、あなたのいまの幸福度は何点くらいですか」という質問をし、その解答(平均点)の年齢による変化をみると、.....
- 海外では、「40歳代をボトムに加齢によって幸福度が上がる」という研究が多いが、日本ではまちまちであり、加齢によって幸福度が横這いまたは低下という研究もある
- 同じ60歳でも、いまと2035年では置かれている状況が違う(世代や年の効果)。単純には断定できない。
- 何が幸福度に影響しているかが大切。

4

自分の幸福度を判断する際に重視する項目

「健康」「家族」「家計」

性別	順位	年齢	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79
男	1位		友人	友人	家計	家族	家計	家計	家計	家計	健康	健康	健康	健康	健康
	2位		自由時間	家族	家族	家計	家族	健康	健康	健康	家計	家族	家計	家族	家族
	3位		精神的ゆとり	生きがい	就業	健康	精神的ゆとり	家族	家族	家族	家族	家計	家族	家計	家計
	4位		家族	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	健康	精神的ゆとり	就業	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり
	5位		生きがい	家計	健康	就業	就業	就業	精神的ゆとり	就業	就業	就業	就業	自由時間	自由時間
女	1位		友人	家族	家族	家族	家族	健康	健康	健康	健康	健康	健康	健康	健康
	2位		家族	精神的ゆとり	家計	家計	家計	家族	家族	家族	家計	家族	家族	家族	家族
	3位		精神的ゆとり	友人	友人	健康	健康	家計	家計	家計	家族	家計	家計	家計	自由時間
	4位		自由時間	健康	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	精神的ゆとり	自由時間	友人
	5位		健康	家計	健康	友人	就業	就業	就業	就業	就業	就業	就業	精神的ゆとり	精神的ゆとり

(出所)内閣府[2011]「幸福度に関する研究会報告」
 -他に「余暇」「仕事の充実感」「職場」「地域」などが候補。

年金の受給額はどうか決まる

- 基礎年金(国民年金)の保険料:年19万5千円(月16,260円)
- 年金額:78万円(月65,008円)。40年で満額なので、1年払うと、 $78万 \div 40 = 19500$ 円、受給額が増加。→65歳から10年、75歳まで受け取れば、「もとがとれる」(長生きの保険)
- 厚生年金の保険料:報酬の18.3%(2017/9以降)を労使が折半。報酬比例部分の年金額は
- **→(おおよそ)生涯の総報酬(上限有り) × 22%**
 例えば、ボーナス込みの年収500万円なら、1年で27,500円
 40年加入で110万円(年)の年金受け取り
- 基礎年金と合計すると、1人年188万円(月15万7千円)
- 現在60歳以上の人のうち、暮らし向きが、「まったく心配ない」または「それほど心配ない」と感じている人が7割。

一体いくら貯めておけばよいのか (とりあえず金利ゼロの世界で)

- 支出:年300万円(月25万円)。なお、生命保険文化センターアンケートでは、最低限の生活費が月22万円。ゆとりある生活費用が35万円。夫死亡後は月17万円(年204万円)。50歳の余命は男32年、女39年だが、4人に1人は42年間、48年間生きる。
 - 65歳から夫が92歳まで妻が98歳まで生きるとすると、
 $300万円 \times 27 + 200万円 \times 6 = 9,300万円!!$
 - 年金額:夫500万円、妻250万円の年収。40年厚生年金加入
 $188万円 \times 27 + 250万円 \times 33 = 9,400万円$ 貯蓄はほぼ不要。
 - 専業主婦世帯の年金、夫188万円。妻78万円で計266万円。
 $266万円 \times 27 + 遺族年金156万円 \times 6 = 8,100万円!!$
- 1200万円の不足(9,300万円と8,100万円)

7

3. 20年後良い年金制度を作るためには

- まず、後世代の給付削減期間の短縮のために、財政安定化のための対策を
 - 一 支え手を増やす:働き方に中立な制度
 - 一 子供の数により保険料や年金額を変更
 - 抜本的には経済成長率、女性や高齢者の労働参加率、出生率を引き上げる方策が不可欠
 - 公的年金は世代と世代の間でパイ(成果)を分け合う仕組み
- 日本の経済や人口構成の影響からは逃れられないが、世代と世代の間の思いやりが必要(後述)

8



4. いまから自分でできることは何だろう

■ いまからできること

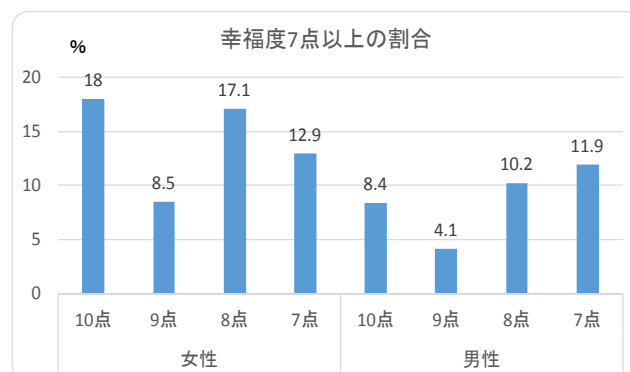
- ①資金の準備
- ②「細く長く」働きつづける
- ③要介護の期間を短く
- ④世代間の思いやり

9



最後に「家族」: パートナーの意味

- 単身高齢者の幸福度(10点満点)は男性5.8点、女性7.0点
- 経済上のメリット
 - ①家計のメリット: 1人から2人になっても、生活費は1.4倍
 - ②長生きへの保険機能: 1人が長生きしても遺産がある
 - ③遺族年金
- 健康、介護やぼけ防止
- 精神面の安定
- パートナーの健康にも配慮を



(出所) 平成27年「高齢社会白書」

10